

令和5年度 西東京市立保谷小学校 校内研究

昨年度までの研究

成果

- ・対話活動の定着、手立ての充実
- ・スイッチ（考えたくなる、話し合いたくなるようなしかけ）を取り入れた授業づくり
- ・学級経営的な視点による取組（エクササイズ・行動目標）
- ・校内研究への職員の主体的参加（事前模擬授業・協議会）
- ・年間8本の研究授業（国語2、算数3、音楽、社会、学級活動）により、複数教科の専門性を高めることができた。
- ・OJTの充実（ICT研修・学力実態調査を生かした授業提案など）
- ・ベーシックドリルを活用した個別学習の充実

課題

- ・対話の効果に差。一人一人の学びの深まりに課題。
- ・ICT機器の効果的な活用

児童の実態

- ・与えられた課題は一生懸命取り組むが、課題を自ら発見したり、選択・決定したりする体験が少ない。
- ・自分の思いや考えを表現することに苦手意識をもっている児童もいる。
- ・課題解決への集中力が続かなかったり、失敗を恐れていたりする様子も見られる。

教職員の願い

- ・児童が自ら課題を発見し、ねばり強く、楽しみながら探究していく授業をつくりたい。
- そのために、自分の指導力を向上させたい。
- ・総合的な学習の時間の「ふるさと探究学習」、スパイラル化を基本とした探究的な学習過程について勉強したい。

<研究主題>

自分ごととして課題を探究する児童の育成

研究の手だて

探究の過程における手立て

- ・児童が探究したいと思える課題を自ら発見する工夫
- ・ICTの効果的な活用
- ・解決方法の手段を提供する。
- ・地域の人、もの、ことを活用した探究
- ・一人ひとりの探究に応じた支援

年間を通じた手立て

- ・学校生活の中で、児童自身が選択・決定する機会を増やす。
- ・児童の思いや考えから出発する授業づくりを大切にする。